

に社協の福祉協力員がもう一度訪問し、現況を共有しあっています。

社協の福祉協力員と協働して見守りを行うために、民生委員が年1回、行政より依頼される調査を活用しています。(対象者から)「災害が起きた時や、何か緊急事態が起きた時に、社協・防犯・警察・消防等に名簿を出してもよい」という同意書に、署名と印を頂き、承諾を頂いたお一人暮らし高齢者世帯を協働で訪問しています。敬老会のお誘いをする時にも、それがもとになっています。

しかし、民生委員の中には、社協の活動に協力することに、不満に思っている方がいることも事実です。民生委員の活動よりも、社協の活動の方が多いということもあり、民生委員としては民生委員活動を優先にすること、また知り得た情報も個々のモラルにおいて判断するための研修会や、学習会は常に欠かさないように行っています。

### 佐倉市 (匿名希望)

私どもの地区民児協では、1人でも多くの方々に地域福祉を理解していただき、「安心して住みよい環境づくり」を念頭におきながら活動しています。

地区社協とは、共通の目標を持ち、地域福祉の向上を目指していくために協力し合って活動していますが、民児協と地区社協の役員が重複しないように心がけています。

分担した利点としては、民生委員は、地区社協にあるそれぞれ(分野別)の事業部に所属し、福祉委

員としての協力でよいため、多少時間的に余裕が取れ、他の活動に充てることができる点です。

### 社協職員 (匿名希望・職員歴13年)

民生委員には、民生委員法に基づく様々な役割が求められています。一方、地区社協(あるいは支部、支会)はそれぞれの地域で地域福祉を推進するために様々な活動を行っています。

「地域福祉の推進」とは何か? その問いには、いろいろな答えがあると思いますが、私は「誰もが安全・安心で住みやすい地域を作ること」、そして地域に住む人たちが「この街に住んでいて良かった」と思える地域を作ることだと考えます。

民生委員と地区社協とでは、立場や役割は異なりますが、その活動の最終的な目的は同じ「地域福祉」という方向を向いていると思います。そうであれば、それぞれの活動の強みを活かし、あるいは弱みを補完し合えるような連携や協働が重要であり、それが結果として地域に住まう住民の福祉につながるのだと思います。

例えば、災害が起こった時、民生委員や行政だけで、すべての要援護者の安否確認を行うことができるでしょうか。そもそも、この安否確認は民生委員や行政だけがやればよいことなのでしょうか。いずれも否でしょう。日頃から「共助」といわれる関係がある地域であれば、誰に求められなくても自然に声を掛け合ったり助け合ったりします。そういう地域であれば、民生委員はより支援が必要な要援護者に集

谷折

民生委員だけではなく、多くの方に参加していただいているので、以前より少しその(地区社協の担い手の)幅が広がっています。また、地区社協の場が、支援者同士を結びつけ、支援方法などを検討する場となっているところもあり、そういった点で民生委員の負担が軽減されているのかなと思います。

市川市と同じように、愛媛県松山市でもサロンの場が、民生委員の負担軽減や担い手不足の解消につながっているようです。

松山市の(民生委員の)定数は、900名以上ですが、欠員が1人もいないということです。市内約290ヶ所以上でサロンが開催されており、ここに多くの地域住民が、その担い手として活動しています。

退任間近の民生委員は、その様子を見て「この人なら大丈夫だ。民生委員をまかせられる」と、後任の候補者探しをするようになったようです。地域の中で選べる人が増え、「次はあなたお願いね」と言って辞めていくので、欠員が出なくなったというわけです。また、その新任委員が困った時にも、既に知っている、助けてくれる方が周り(地域)にいるので非常にやりやすい環境ですよね。

**大野** 地区社協の活動の場合、なぜ負担感が少ないのかということ、参加することに暗いイメージが無いということがあると思います。

民生委員活動ですと、どうしても難しい事例を扱うことが多いので、どこか重苦しいイメージがありますが、地区社協の場合には催し物に参加して、住民の方と会話をしたり、楽しく参加できるイメージがありますね。

前回の一斉改選時、流山市では欠員数が県内でも多い方でした。あの時、世間では「消えた高齢者問題」が騒がれていて、私には重くてとてもやることできないという人がいました。

**山崎** たしかに、厚生労働大臣の委嘱状を持って活動できる場面というのは、大野さんが言われるようなところがある気がしますね。

**羽田** 民生委員が、地区社協の機能や活動に価値を見出すことができれば、負担感という話は全然違うものになってくると思います。

例えば、地区社協に「情報が集まる」とか「(支援者)仲間がつながる」というような機能があれば、民生委員にとっても地区社協に出ていく意味があると思いますし、それが結果として、地域の中での課題解決力を上げることにもつながります。地区社協の役割の一つには、地域に「つながる仕組み」を作るといったことがあると思います。

**山崎** よくわかります。都市部でも中山間地でも、地域課題はどれも同じなんです。田舎だと、何でも知っているかというところでもない。段々、人口が減ってきて、隣の家との距離が離れていくと、家の中に閉じ込められてしまうようになります。昔のことは知っているけど、今誰がそこに住んでいるのかはわからないという状況なんです。

地域みんなを集めて、「今あそこの家はこういう状況だ」ということを確認できるような「つながる仕組み」を作らないと、地域のことわからなくなってしまう状況にきています。

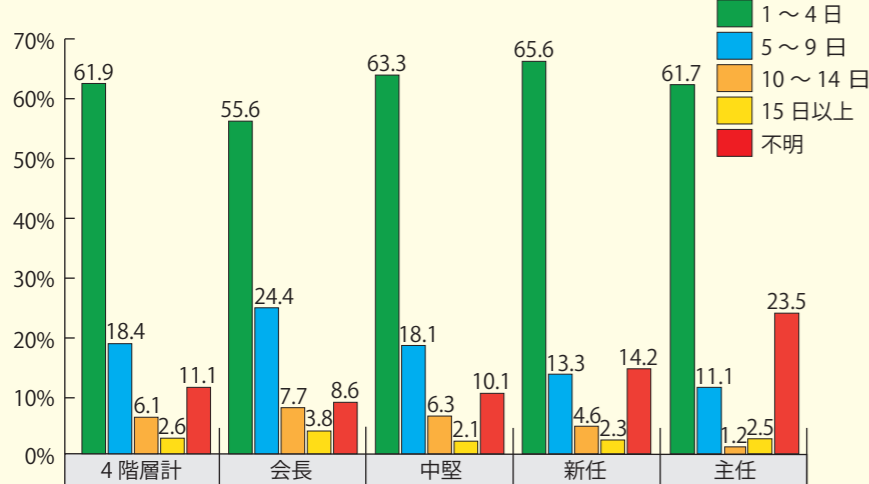
**羽田** 地域住民の中で、民生委員はこういう人で、だから自分たちが選んだという意識がないと、現実的には民生委員が活動をする上でも立場上でも非常に苦労します。逆に、それを作ることができれば、活動しやすくなると思います。

それを作るのは、行政の役割で、地域や地区社協に対し、民生委員の役割などを訴えかけていく必要があります。ただ、その前に(行政が)民生委員の役割というものを明確にしておかないと、地域に説明することはできません。

私が普段地域の方や民生委員の皆さんに言っていることは、民生委員は「個人を援助するという機能はあるが、すべてを援助できるわけではない」こと、また「つなぐ」役割と「地域の情報を集める」役割があるということです。

地区社協はというと、これまでいろいろな方

2. 地区社協活動へのひと月の平均活動日数



※回答は、1の設問で「頻繁・ときどき参加している」方のみ

3. 地区社協活動に参加・協力する理由

順位	理由(4階層計・上位5位まで)	割合
1	民生委員として当然の活動だから	23.5%
2	民生委員になると、自動的に地区社協活動をやることになっているから	22.8%
3	同じ地域福祉の向上を目指している団体の活動だから	21.8%
4	多くの組織・住民が参加し、顔の見える関係作りに適しているから	13.0%
5	地域の様々な情報が手に入るから	5.9%

※回答は、1の設問で「頻繁・ときどき参加している」方のみ  
※本設問は、複数回答(選択肢10のうち、2つに○)

谷折